

「こおりやまの米」通信

平成24年7月4日

編集:郡山市
 JA 郡山市 (.921-0724)
 NOSAI 郡山田村 (.933-3307)
 県中農林事務所農業振興普及部 (.935-1310)
 発行:郡山市農作物生産対策協議会 (郡山市営農推進課 .924-3761)



Vol. 6 次号は7月中旬(追肥・カメムシ防除・水管理等)

*最新号はJA各支店窓口にそなえてあります

1 生育概況

平年に比べ、6月の気温は最高気温がやや低く、最低気温が並となり、日照時間が少なく、降水量が多くなりました。

7月2日の生育調査では平年に比べ、草丈は短く、茎数が平坦部では多く、高冷地では少ない状況です。葉色は平年並みですが、高冷地では淡くなっています。

7月2日 生育調査結果

品種 (調査地点)	年次	草丈 (cm)	茎数(本)		葉令
			株あたり	mあたり	
コシヒカリ (田村)	本年	47.1	332	676	8.6
	平年比(%・差)	81	118	120	-0.5
ひとめぼれ (安積)	本年	37.5	319	485	8.1
	平年比(%・差)	80	127	118	-0.4
天のつぶ (喜久田)	本年	40.7	25.7	480	7.4
	前年比(%・差)	72	93	86	-0.4
あきたこまち (湖南)	本年	30.5	14.4	276	5.8
	平年比(%・差)	74	67	60	-1.9

2 天気予報(1ヶ月予報 6月29日発表)

<予想される向こう1か月の天候>

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

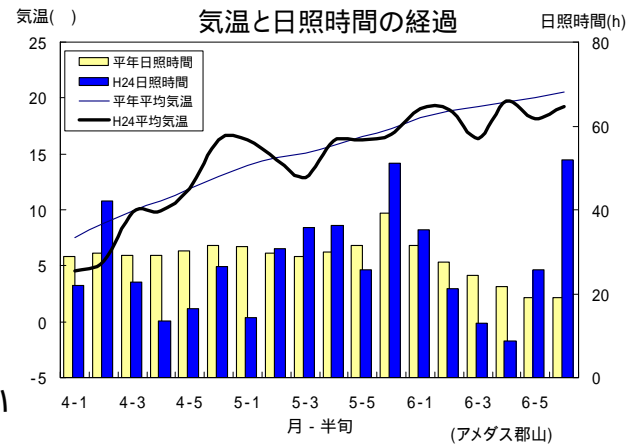
週別の気温は、1週目は、平年並の確率50%です。

2週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

<予想される8、9月の天候>(3ヶ月予報 6月25日発表)

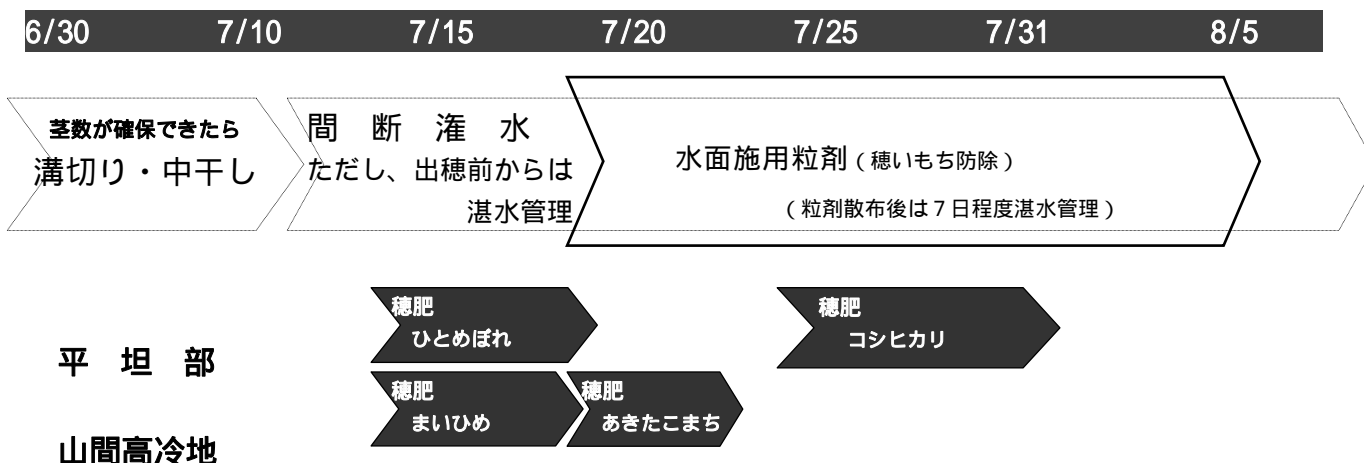
8月 天気は数日の周期で変わる見込みです。

9月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に曇りや雨の日が多い見込みです。



3 病害防除等作業の目安 (管内の主要品種の平年の生育を元にしてあります。ほ場ごとに生育を確認し、作業日程を決めて下さい。)

* 平年出穂期 高冷地 まいひめ: 8 / 3 あきたこまち: 8 / 8
 平坦部 ひとめぼれ: 8 / 6 コシヒカリ: 8 / 12



穂もち防除用の水面施用粒剤は薬剤により施用時期が異なります。確認の上、ご使用下さい。

4 穂肥

(1) **ひとめぼれ**は、幼穂形成期（出穂25～20日前）にチッソ成分2kg/10aを基本に生育状況を見て量を加減しましょう。

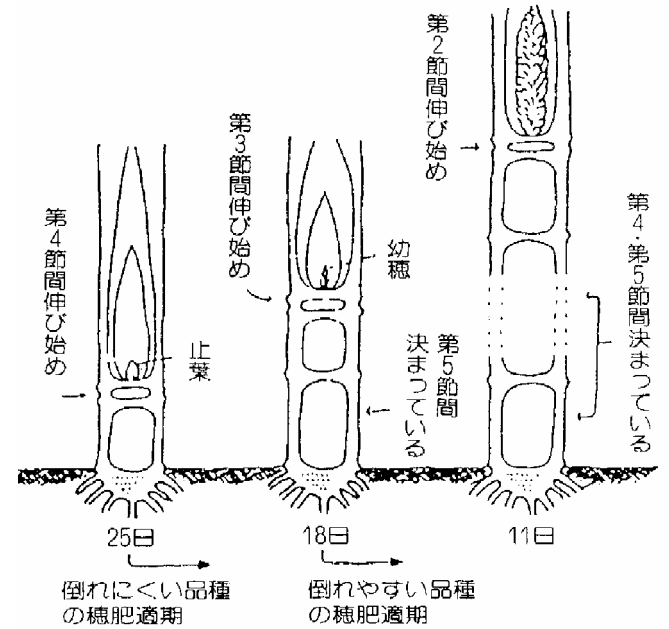
コシヒカリは、減数分裂期（出穂15～10日前）にチッソ成分2kg/10aを基本とします。

(2) 草丈が長く葉色の濃いほ場は、量を減らすか時期を少し遅らせましょう。

7月15日までに明らかに葉色が淡くなったほ場では、穂肥の前にチッソ成分1kg/10a以下（早く効く肥料）でつなぎ肥を施用しましょう。

(3) 出穂期は天候により変化しますので、幼穂長等を確認し、適期に追肥しましょう。

*** 基肥一発の場合は、原則として穂肥は行いません。**



追肥のチッソ成分2kgの目安(10aあたり)

肥料銘柄	N-P-K	効き方	施用量
NKC6号	17-0-17	早い	12kg
IB4号	15-4-15	ややゆっくり	13kg
こおりやま2号	10-2-10	ゆっくり (有機入り)	20kg

幼穂長による出穂前日数の判定

幼穂長	出穂前日数	備考
1.5mm	24日	幼穂形成期
2.0mm	20日	
40.0mm	15日	減数分裂期

5 カメムシ類対策

玄米千粒(約23g)にカメムシ被害粒が2粒入ると等級落ちになるよ!

カメムシの発生は平年並みと予想されます。

薬剤で防除する場合、スタークル粒剤(湛水して散布)、MR.ジョーカー粉剤DL、スミバッサ粉剤20DLを散布してください。

ミツバチなどの有用昆虫に対し長期間影響のある薬剤があるため、養蜂業者との連絡(所有者不明の場合は県中家畜保健衛生所 TEL923-1661)を密にし、事故のないようにしましょう。

6 穂いもち対策

梅雨入りし、いもち病に感染しやすい気象条件となっています。葉いもち防除を実施していないほ場では、いもち病感染の危険が高まっていますので、注意してください。

(1) **粒剤**で予防する場合は、下記薬剤を、**7月中旬～下旬に散布**しましょう。

コラトップ粒剤5、フジワン粒剤等

(2) 早期発見・早期防除につとめ、病斑を発見したらすぐに液剤や粉剤等で防除しましょう。

この資料は、平成24年7月1日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

農薬(特に粉剤・液剤)を使用する際は、近隣作物に飛散しないよう、注意してください。

平成24年度福島県農薬危害防止運動展開中

平成24年6月1日～8月31日

6月～8月は、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬の使用量が多くなる時期です。

農薬を使用するときは、安全かつ適正に取り扱い、農薬による危害と事故を防止しましょう。